

○ 湊 浩 二 郎 (30分)

【一問一答方式（2回目から）】

1 西九州させぼ広域都市圏に係る今後の対応について

佐世保市は平成28年4月中核市へ移行し、広域的な都市圏形成に関して、中心的役割を担うべき存在になりました。このことは、本市が、行政区域の枠を超え、社会的、経済的に関係性のある自治体と横のつながりを築き、医療や交通、産業、環境といった分野において、圏域内の行政サービスや都市機能を効率良く活用しながら、地域の社会・経済のリーダーとして持続的に牽引していくという非常に大きな役割を担うことを意味します。そして、佐世保市は、構成市町の個性を尊重しつつ、地域住民の暮らしを支えると同時に、この圏域の豊かで実りある未来と、一体的な共生社会を築くため、多様性と創造・挑戦・進取の精神をもって、本圏域の中心市として力を尽くしていくことが求められます。

これらのことを踏まえ、この西九州させぼ広域都市圏には、当初12市町の参加予定でありましたが、佐々町議会が条例を否決したことにより、本年1月に同町不参加のまま11市町によるスタートとなったところであります。

新聞等の報道では不参加となった佐々町の町長は町議会を説得し、連携へ向けて進みたいとの意向を示されていますが、現時点でどのような状況となっているのかと思案し懸念もするところであります。

今後、佐々町との連携（参加）をどのように考え、取り組まれて行くのか、市長のお考えをお尋ねします。

2 小中学生の福祉医療制度のあり方について

平成28年8月から小中学生も医療費の助成が始まりました。

子どもの医療費助成については、子育て世代の経済的負担を軽減し、乳幼児や子どもたちの病状が重篤化しないように受診しやすくするための制度であると理解しております。しかしながら、小中学生福祉医療制度においては、償還払いという方法で、受診した医療機関の窓口で健康保険の自己負担額3割分を支払い、その後、福祉医療費支給申請書に領収書等を添えて市役所へ提出し、後日、助成金が保護者名義の銀行口座へ振り込まれるという「煩雑」かつ「日数を要する」手続きがとられています。

また、時間外や休日の時に支払う窓口負担額は高額な時間外・休日割増料金を一旦自己負担（立てかえ払い）しなくてはなりません。これでは小中学生福祉医療制度の理念に全くそぐわないと考えます。後で立てかえた分を支払うのであるのなら、窓口での一時的な立てかえ払いの負担をなくす「現物支給制度」を採用すべきではないかと思えます。

なぜ、現物支給を行わないのか不思議でなりません。現物支給にすることによってどのような問題があるのか、市長のお考えをお尋ねします。

3 市職員の定年退職後について

近年、少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少から、働き手の不足が叫ばれている業種があります。

一方、定年退職を迎えた社員等が現役時代に長年培った技術や経験を活用できる場の創出が必要であると考えられます。

本市職員も同様に60歳を超えてもまだまだ活躍できる人材が多くいると思われませんが、定年退職後は再任用・嘱託や市の関連施設で雇用されていると聞き及んでいます。

そこで、本市職員が現役時代に長年培った技術や経験を活用できる場で雇用されているのか、また、どのような処遇になっているのか、市長にお尋ねします。

4 市本庁舎の活用について

現在、市本庁舎はワンフロアごと改修を行われておりますが、より市本庁舎を活用するため、例えば13階に市民や観光客等が利用可能な佐世保市を一望できる展望レストランをつくり、佐世保名物の佐世保バーガー、トルコライス、海軍カレー、レモンステーキ等を食べることができるようにし、佐世保の名所のパンフレットなどを配置して、多くの方が佐世保市を満喫できるように活用してはどうでしょうか。

市長のお考えをお尋ねします。

○ 鶴 大 地 (30分)

【一問一答方式（2回目から）】

1 市内道路における、歩行者の安全管理について

歩行者の安全を守る必要性が見つめ直される今、本市としても早い対応が必要だと考えます。

特に、子どもが活用する道路の安全管理に着眼して、本市の考えや取り組みをお伺いします。

2 観光業における、新規事業計画推進について

25万人規模の佐世保を未来につなぐための交流人口の拡大を図り、国内外からの観光客誘致を促進してきた努力から、「黒島の集落の世界遺産登録」「世界で最も美しい湾クラブ加盟」「クルーズ船の寄港数増加」と数々の追い風が吹いている状況と考えます。しかしながら、観光客数増加に向けた事業を今後も引き続き積極的に行わなければ、さらなる増加はもとより維持も見込めないと考えます。

そこで、現在の取り組みから今後の展望までをお伺いします。

3 農林水産業における、AI及びIoT技術の導入について

世界では大幅に増加する漁獲量も、日本では減少が続いています。その中でも、本市の漁獲量は大幅な減少はなく全国4位の水産都市として成り立っています。しかし、生産年齢人口減少の波は大きく押し寄せ、将来を見据えた農林水産業の振興が必要だと考えます。

そこで、AI及びIoT技術を活用した農林水産業への昇華に着眼してお伺いします。

○ 田 山 藤 丸 (30分)

【一問一答方式（2回目から）】

1 子ども・子育て支援について

本年10月より国の施策として幼児教育・保育の無償化がスタートする。子ども・子育て分野における大きな制度改正であり、さらに「佐世保市総合計画」「新させぼっ子未来プラン」が改定の時期を迎えることもあわせて、政策上重要な転換期が訪れている。そこで、以下の点についてお尋ねする。

- 幼児教育の無償化と支援策の充実
- 利用定員と保育の質
- 保育者不足への対応策
- 子どもの安全とコミュニティ

2 地区公民館の役割と自習室の設置について

近年の公民館は社会の多様化に伴い、地域の要請に的確に対応した取り組みや子どもや若者、働き盛りの世代も含め、住民全体が気軽に集える拠点になることが期待されている。そこで本市でも、地区公民館のあり方について議論が行われていることから、以下の点についてお尋ねする。

- これからの公民館の役割と課題
- コミュニティセンター化
- 誰もが利用できる自習室の設置

3 買い物弱者の対策について

今日、人口減少や少子高齢化を背景とした流通機能や交通網の弱体化等の多様な理由により、日常の買い物機会が十分に提供されない状況に置かれている「買い物弱者」の対策が急務である。そこで、本市における買い物弱者の対策の現状と今後の課題についてお尋ねする。

4 相浦地区の将来ビジョンについて

相浦地区は、大学・短大・高校、総合グラウンド等を有する文教地区であり、若者の集積を生かしたまちづくりが期待されている。今後は、交通の利便性をさらに向上させ、本地域の魅力を伸ばしつつ新たな地域核の形成が求められている。そこで、以下の点についてお尋ねする。

- 文教地区としての機能をいかに高めるか
- 長崎県立大学のキャンパス整備を生かした地域連携の推進
- カレッジパスの取り組み
- 次世代のための新たな地域核の形成

○ 佐藤文子

(15分)

【一括方式】

1 がん検診受診率向上について

○ 受診率向上における現在の問題点について

2 福祉・介護職者の人材不足について

○ 佐世保市内の福祉・介護保険サービス事業の実情と問題点について

○ 山 下 廣 大 (30分)

【一括方式】

- 1 佐世保市におけるデジタルネイティブ世代の児童とインターネットの向き合い方
 - 児童とインターネットの利用についての考え方
 - ICT 機器（スマホ、タブレットなど）を使った教育について
 - 携帯電話の学校持ち込みについて
 - インターネットに関連したいじめについて
 - 不登校、ひきこもりとインターネットの関連について
 - e スポーツのこれからについて

- 2 子どもを産みやすい、育てやすい環境づくり
 - 佐世保市は全国的に見てどの程度子どもが産みやすいまちなのか、また子育てしやすいまちなのか
 - 佐世保市の出生率や支援策などについて

- 3 高齢者ドライバーの事故対策について
 - いまや日本の大きな問題となっている高齢者の運転について佐世保市としてはどのような問題を把握しているのか。また、その対策をしているのか。

- 4 V・ファーレン長崎の練習場の誘致について
 - J リーグ所属の V・ファーレン長崎が新たに練習場の新設を発表し、長崎県下 21 の市町へ移設を表明。他市との交渉が決裂している中、佐世保市としての活性化、スポーツ教育の面も踏まえて検討されてはいかがでしょうか。